

学長職としての6年を振り返って

国立大学法人宮城教育大学
同窓会会長(学長)

見上一幸



本年三月に、私は学長としての任期を満了します。この間、同窓会のみなさまから多大なご支援を賜り心から感謝申し上げます。学長職への就任は、東日本大震災の翌年でした。この大震災の犠牲者の中には本学同窓生もいらっしやったことを思うと、あらためて悲しみが募ります。ご冥福をお祈り申し上げます。本学では建物や施設への被害は少なかったものの、その年の卒業式は行えず、卒

業生のみなさまには大変申し訳なく思っています。七年を経過した現在、本学は被災地の教育大学として、地震や気候変動による災害などに備え、防災・減災教育をより一層推進しているところです。また近年、国立大学にとって共通の困難は国からの予算減額です。そこに対応するため「宮城教育大学改革プラン」を策定し、改革を進めてまいりました。さらに、教育の質の低下を招かないために、東北の教員養成に関わる六国立大学の学長による東北教職高度化プラットフォームフォーラム会議が結成され、スケールメリットを活かした連携協力を進めています。昨年設置された教職員支援機構の国内初のブランドオフィス「宮城教育大学センター」の役割も期待されています。

卒業生のみなさまには、さまざま機会を通じて母校との絆を強め、自ら学び続けていただきたいと思えます。これからも宮城教育大学が、東北における教員養成の広域拠点大学として優れた教育者を育てる場であり続けられるよう、引き続きご支援をよろしくお願ひします。

世界は今、ITの進展やグローバル化の進む中で、内向き志向もみられる将来の不透明な時代と言われます。そのような時代であればこそ、「教師は生涯学び続ける存在である」という本学初期からの理念を、現在本学が取り組んでいる「地(知)の拠点整備事業(平成二十五〜二十九年度)」の中で「イノベータータイプ・ティーチャー」という呼び名を用いて再確認しています。

世界は今、ITの進展やグローバル化の進む中で、内向き志向もみられる将来の不透明な時代と言われます。そのような時代であればこそ、「教師は生涯学び続ける存在である」という本学初期からの理念を、現在本学が取り組んでいる「地(知)の拠点整備事業(平成二十五〜二十九年度)」の中で「イノベータータイプ・ティーチャー」という呼び名を用いて再確認しています。



題字
加藤豊似名誉教授
発行人
宮城教育大学同窓会
仙台市青葉区荒巻字青葉149
会長 見上一幸
平成30年3月23日発行
印刷
株式会社宮城友栄社

vol.29

CONTENTS

・巻頭言「学長職としての6年を振り返って」	1	山下 勝	7	・恩師は今	中屋 紀子	12
宮城教育大学長 見上一幸		小倉聡子(ボ・ダッシュ)	7	・同窓生の輪	樫村 恵三	12
・特集「宮教大でまた学ぼう！」	2	・四コマ漫画「熊鈴」	8	・親子D E 同窓生	13	
我妻 良行	2	・平成30年度(第31回)同窓会総会案内	8	廣島 利夫・廣島 寛太		
白井 美里	3	・同窓会事業・会計・予算	9	・サークル今昔	14	
藤原 英治	3	平成28年度庶務・会計報告		女子バスケットボール部 高橋 真澄		
朝日田 顕志	4	平成29年度事業計画・予算		佐藤 穂香		
富田 圭一	4	・今年度定年退職教員	10	・ホームカミングデー2017	15	
武山 光穂	5	笠間 賢二	10	・ホームカミングデー2018のご案内	15	
・同窓会報告	6	関口 博久	10	・事務局だより	16	
小林 信之	6	瓜生 等	11	・計 報	16	
佐藤 敏郎	6	・講堂改修工事終了	11	・編集後記	16	

特集

学び続ける私たちと宮教大

宮教大でまた学ぼう!

～教職大学院レポート～

「教師は生涯学び続ける存在である」という本学初期からの理念を受け、その実現を目指している本学大学院教育学研究科には「専門職学位課程(教職大学院)」と「修士課程」の二つの課程があります。

このうち平成20年に設置された「専門職学位課程(教職大学院)」ができて10年が経ちました。より高いレベルの教育実践力育成を目指す課程である教職大学院は、多くの期待を集めるところとなっています。

この教職大学院には、大学卒業後すぐに、またはそれぞれのキャリアを積み重ねてから入学した同窓生がたくさんいます。一体、どんな学びを積み重ねるところなのでしょう。

同窓生でありながら、現在教職大学院の准教授をされている我妻良行先生と、教職大学院で学んだ5名の同窓生に宮教大で学び続けることへの思いを述べていただきました。

宮城教育大学教職大学院は「学び続ける教員」の育成を目指し、十年目を迎えました。十期生は、学部卒業生二十二名と現職教員十四名の計三十六名で、日々の授業や実践研究を通し、総合的な教師力の向上を目指しています。私が担当している授業は、学級・学校経営や危機管理、学力向上に関わる科目です。授業では、最新の理



我妻 良行

小学校教員養成課程
理系ビーク
昭和六十年度卒

対話的で深い学び

論や事例等について紹介するとともに、学修した内容について院生同士で対話する時間を重視しています。対話は回を重ねるたびに活発になり、今ではまさに「深い学び」につながっています。二年前から、教職員支援機構で実施している「学校組織マネジメント指導者養成研修」を院生たちが受講できるようになり、この対話の舞台は全国にまで広がっています。

現場にいと、学びたくても本を読んだり、じっくり考えたりする時間を持つのは難しいものです。院生の姿を見ると、その機会をいただいたことで、学ぶ喜びに満ちあふれています。この喜びは、多くの人とつながることで、二倍にも三倍にも膨れ上がり、成長につながっています。院生たちが現場に戻って活躍する姿を見るのが、とても楽しみです。

(宮城教育大学教職大学院准教授)

学びの場で
思いつく



学校教育教員養成課程
音楽教育専攻
平成十一年度卒
臼井 美里

私が初めて教職大学院について考えたのは、先輩から「現場を経験してからの大学(院)は、得るものがとても多い。」と聞いたことがきっかけです。現在は、学習開発班で小学校音楽科の授業づくりを研究しています。自身の実践を振り返り、その課題や疑問に正面から向き合う時間には、現場とはまた違った充実感があり、授業づくりの尽きない魅力を感じています。また、学校での指導経験豊富な大学院の先生や、かつてお世話になった音楽科の先生に各分野の視点で指導をいただけることも、教職大学院ならではのです。

教職大学院の授業は、組織マネジメント、学校の防災安全ほか、学校を取り巻く課題について幅広

く学ぶことができるよう構成されています。小グループでの課題解決型のスタイルが多く、校種や経験、世代の異なる仲間と議論を繰り返す中で、新たな視点を得る経験を重ねてきました。「主体的・対話的で深い学び」というキーワードがありますが、その意味を実感をもって学ぶことができたことは、私にとって大きな収穫です。

学部卒業から約二十年。教職を志す若者と共に学ぶ中で、自分が



学級・学校経営研究Cの授業での学力向上戦略マップの発表

いかに現場の先輩方に支えられ、教員として育てられてきたかを感じました。感謝の気持ちと、この大学院での学びを、よりよい実践を通して還元できるように精進していきたいと思います。

(塩竈市立第三小学校勤務)

充実した教職大学院
での学びから



中学校教員養成課程
技術専攻
平成十年度卒
藤原 英治

私は学位を取得後、十六年間に学校教師として同僚や生徒たちと共に活動してきました。しかし、年々生徒たちの実態は変化し、ここ数年、授業や学級経営においてこれまでの手法では指導や支援が行き届かなくなってきたと感じ始めました。そこで、教職大学院でもっと研修を重ね、時代に合った指導力を身に付けたいと考え、受験する意思を固めました。

教職大学院の生活では、志の高

い現職教員や優秀なストレートマスターと本音で議論したり、支え合ったりして共に研修を重ねてきました。また、実績のある素晴らしい先生方から丁寧にご指導をいただき、専門教科の研究に加え、学校現場に即した実践的な講義や実習がカリキュラムに組み込まれており、有意義な毎日を過ごすことができました。特に、教職員支援機構で行われた「学校組織マネジメント指導者養成研修」では、全国から集まった経験豊富な先生方と協働して学修することができ、教育に対する視野が大きく広がりました。さらに、言語活動指導者養成研修への参加や日本産業技術教育学会東北支部大会での講演、仙台城南高等学校公開研究会での授業提供など、貴重な機会をいただき、理論と実践の往還を図ることができました。

次年度は今年度に出会ったたくさんの方々に感謝しながら、教職大学院での学びを生かし、現任校での実践に努めたいと考えています。

(石巻市立河南東中学校勤務)

再び、青葉山にて



小学校教員養成課程
教育学コース
平成二年度卒
朝日 顕志

平成二十年、教職大学院一期生（当時の高橋学長の言葉を借りると「パイオニア」として、再び宮教大で学ぶ機会をいただきました。教職大学院での学びは新鮮で、これまでの自分の教育実践について振り返るとともに、教育の素晴らしさやその責任の重さなど、改めて多くのことを考える機会となりました。

学籍番号が一番でしたので、入学式の代表呼名など多くの出番がありました。その一方、「初めに朝日田君、どうですか?」「朝日田君からお願います。」と授業での指名や発表も私から始まることが多く、授業では最初に指名されるものだと覚悟して臨んでいました（しつかり答えられたかどうか

かは別の問題ですが）。授業中指名される子どもの気持ちが変わって分かったのは事実です。

また、私は短絡的に答えを出すことが多く、授業では「なぜそう考えるのか?」「根拠は?」と質問されると返答に詰まりました。私の発言を黒板に書き出ししながら先生が整理し、目に見える形にして教えていただいたこともありました。理解できない児童生徒に対し、整理しながら展開していくことの大切さについて身をもって理解したものでした。

そして、宮教大での貴重な出会い



教職大学院開設祝賀会での挨拶

い。先生方の学問に対する真摯でひたむきな姿勢からは大きな刺激を受けました。さらに一期生の素晴らしい仲間から得るものは多く、現在につながっています。今後も多くの方々の絆を大切に児童生徒のために精一杯精進していきたいと思っています。

(多賀城市教育委員会勤務)

時間



障害児教育教員養成課程
養護学校教育専攻
平成十三年度卒
富田 圭一

「うまくいかない:」、
「これ
でいいのか:」教師として十数年
を経ても、授業を重ねる度にそんな
思いが私の胸に消えては生まれ
る。

日々現場で生徒と共に学び合う
中で、よりその価値を実感させら
れるのが、「時間」である。それ
も、自らを省みるための時間であ
る。残念ながら一度現場に入って



五号館入口に掲げられた看板

しまうと、なかなかそのような時
間を持つことは難しい。そんな時
に、教職大学院の話をいただいた。
当時、自己の更なる教科指導の効
果を模索していた私にとっては、
ありがたい話であり、自分の授業
を見つめ直すだけでなく、自分
自身を見つめ直す絶好の機会であ
った。入学後は、教師としての原
点復帰だけではなく、学校運営に
おける自分の役割といった、新た
な視点も身に付けることができた。
そして、何よりも貴重だったこと
:それはやはり「出会い」である。
教授の先生方はもちろんのこと、

まさか六年も青葉山に登ることになるとは、想像もしていませんでした。教職大学院への進学は、



初等教育教員養成課程
幼児教育コース
平成二十六年度卒
武山 光穂

人生の学び舎

(宮城教育大学附属中学校勤務)

「学ぶことは、純粹に楽しい」
それを、自信を持って伝えられる、そんな私にしてくれた二年間であった。

教育に対して熱い向上心を持った仲間と出会い、新たに知ること、考えること、議論することを通して学ぶことの楽しさを改めて実感できたことが、私の何よりの財産となった。
現在は再び、「時間」の価値を実感させられる日々を送っているが、以前の私とは大きく異なる点がある。それは、生徒以上に「学ぶ」ことを楽しんでいる点である。



H29年度 リサーチペーパー最終報告会の様子

人生のターニングポイントです。教職大学院で学ぼうと思っただけではありません。当時、小学校教員への道は全く考えておりませんでした。しかし、小学校での実習を経て、「教員になりたい!」と思ったのです。そこで、当時の担当教授から教職大学院を勧められ、進学を決めました。
教職大学院での二年間は、本当に恵まれたものでした。他の大学から進学してきた学生との出会い

他にも
あります

宮教大でまた学ぶ

教職大学院だけでなく、同窓生が宮教大で学ぶ機会として、教員免許状更新講習の他、数々の公開講座も開かれています。教職に就いている方だけでなく、一般の方にも開かれている講座があります。

平成29年度 公開講座

(一般向けの講座 一部抜粋)

- ・算数・数学、嫌いになったのはなぜかしら? (その5)
- ・物理学のすゝめ
- ・おさなごと楽しむふれあい遊び
- ・体験講座 三味線入門
- ・大人のためのプログラミング体験 など

詳しくは宮教大のWebページをご覧ください。

は、とても新鮮でした。現職の先生方と一緒に学べたことも、本当に貴重な経験です。授業のこと、子どもとの接し方のことなど、現場の生きた意見をたくさん教えていただきました。教授の先生方にも、大変お世話になりました。指導主事をされていた先生や、大学の専門教授から日常的に、かつ大変親身にご指導をいただきました。研究テーマを基に教科を一つに絞

り、多くの時間をかけて教材研究をする日々。今考えると、なんて贅沢な毎日だったのかと思います。現場で働くようになり、当時の教えの大切さを実感します。「ねらいを一つに絞る」、「教材研究は足し算、授業は引き算」、「子どもは間違いを言わない」など、枚挙にいとまがありません。教職大学院での出会いと学びを大切に、学び続ける教員でありたいと思います。
(利府町立利府小学校勤務)

同窓会 報告

日時：平成29年8月5日
会場：ホテル白萩
参加人数：80人
内容：第1部 総会
第2部 記念親懇
第3部

同窓会を終えて

中学校教員養成課程・保健体育専攻
昭和六十一年度卒



小林 信之

八月五日
平成二十九年
度
同窓会が見上一幸学長様をはじめ
多くのご来賓の皆様や同窓生のご
参加をいただき無事開催できまし
たこと、改めて同期である十九回
生の「絆」に深く感謝申し上げます。

平成二十八年秋に、十八回生の
先輩方から事務局を引き継ぎ、何
をすればよいのか悩んでいた時に、

その場にいた仲間から記念講演の
講師に同期の佐藤敏郎氏を推す声
が上がり、早速連絡を取ったとこ
ろ、快諾を得ることができました。
無理なお願いを快く引き受けてい
ただいたことに改めて御礼申し上
げます。

その後、時間は瞬く間に過ぎ、
平成二十九年六月となり、この時
期から本格的な準備を始めたとい
ろ、協力してくれる同窓生も増え、
準備を順調に進めることができました。

そして同窓会当日、五十名を超
える同窓生と恩師の高木力雄先生
と再会することができました。大
学を卒業して三十年の月日が経ち
ましたが、その笑顔は間違いなく
学生時代のままの笑顔のように見

えました。そして懇親会の最後を
締め括る学生歌とエールを同期の
団長の由良圭介氏のリードのもと
行い「フレイフレイ教育！」と透
き通るような由良氏の声に一同心
から感動しました。宮城教育大学
が、私にとって、さらには参会さ
れた同窓生にとっても大切な場所
であり、心の拠り所となっている
ことに気付かされました。同窓生
の皆さんと至福のひとつきを過ご
せたことに感謝いたします。あり
がとうございました。

(名取市立みどり台中学校勤務)

3・11を学びに変える

中学校教員養成課程・国語専攻
昭和六十一年度卒



佐藤 敏郎

「満場一致
で決まったから
総会で話してくれないか」小林委
員長直々の電話に謹んで大役をお
受けしました。「満場」とは何人
だったのかは今も分かりませんが
(笑)。

東日本大震災の日、私は海辺の
町女川の中学校に勤務していまし
た。瓦礫に埋もれた町で学校を再

開し、防災を担当しました。次に
転勤したのも被災した地区の学校
でした。そして、私の次女は学校
で津波に襲われました。
石巻市立大川小学校。管理下で
多くの児童が犠牲になりました。
校名を聞くだけで、多くの人が身
構えてしまいます。でも、学校は
子どもの命を守り、輝かせる場所
であるべきで、そのためにも子ど
もたちと先生方の命を無駄にし
てはいけません。誰もがそう願って
います。

私も、遺族、教師両方の立場で
あることの苦悩もなかったわけ
はありませんが、試行錯誤の中で、
むしろ自分は、最も向き合いやす
く、言葉にしやすい立場なのだ
と分かりました。娘が大好きだ
学校のことを伝えられる機会を
いただくことに今は感謝しています。

私の周りには、3・11を言い訳に
するのではなく、未来に歩み出す
きっかけに変えた生徒たちをはじ
め、背中を押してくれる方々が沢



佐藤氏による記念講演

山います。今回も、同級生たちは「思う存分、何を話してもいいぞ」と言ってくれたし、「お前らしいなあ」という言葉も嬉しかったです。

青葉山で仲間と過ごした青春の日々が、今日につながっているのだと実感できました。本当にありがとうございました。

(NPOカタリアドバイザー)

読書感想文を持参して…



山下 勝

中学校教員養成課程・保健体育専攻
昭和六十一年度卒

場していた敏郎くんは何度も見ていましたが、講演で直接彼の話を聞けるのは、大川小のこともっと知りたいと思っていた私には、同級生に会える楽しみの他に期待することでもありました。遺族と同業者という両方の立場での想いを持ち、活動をしている敏郎くんの貴重な話を聞き、感銘を受けながらも、教員としてのありようを再認識させてもらいました。数日前に、彼の本を読んだ生徒の感想文を偶然目にして、



久々に会う恩師を囲んで

ぜひ手渡さなければと持参して贈らせてもらいました。

昨年初めて同窓会に参加して、懐かしい先輩や同級生に会い、楽しませてもらいましたし、アトラクションで岩手の神楽を披露してくれた民族芸能研究会びっすいの学生さんには、その後わが九戸村にて演舞してもらったこともあり、繋がりを持ちつつ、更に多くの同級生に会えるであろう今年度の同窓会も楽しみにしていました。

構内合宿所での各部コンパ訪問、磯浜合宿所でのコンパ、みやぎ蔵王山小屋での年越し、新築第二体育館屋上での月見会、構地内一周

帰郷

のゴルフ競争、亀岡の坂での同級生スキーヤー目撃、初めての屋内開催体専運動会、一番町でのダンス披露、構内プールでの水上運動会、等々数多くの濃すぎる経験を共にした同級生との再会は、私は正に原点回帰でありました。

今後、教育への探求心が絶えない宮城大同窓会が続くことを願っています。

(軽米町立軽米中学校学力向上支援員)



小倉 聡子
(ボーダッシュ)

小学校教員養成課程・英語コース
昭和六十一年度卒

結婚後、生活の基盤がアメリカになりましたが、毎年仙台に里帰りしています。こうでは大学で日本語教育に携わっています。卒業してから現在までの引越回数は大きい移動だけで十一回。いくらなんでもそろそろ一か所に落ち着きたいと思うと同時に、仙台とのつながりが薄くなっていく寂しさを感じ始めていました。

同窓会に参加できて嬉しかった



会場いっばいに響くエール

のは、自分が生まれ育った仙台への郷愁を再確認することができたことです。それは建物や街の風景への思いとは別で、自分がここにいたことを覚えていてくれる人がいることの心地よさに気づいたこととです。長い間会っていないけれども、「あ、ちゃんだ。」と気づいてくれる、そんな知り合いがあちこちにいるところ、それが故郷なのかもしれないと思いました。小林委員長をはじめ実行委員の皆さんのおかげで、これをきっかけに定期的な同期で集まろうということになり、私にとっては仙台に帰る理由が一つ増えました。

熊 鈴

黒田 謙二



小・美術ビーク
昭和五十三年度卒（仙台教育事務所勤務）

今後は日本よりアメリカ生活の方が長くなっていきます。でも国外に居住していても国政選挙投票ができますし、外にいるからこそ入る情報や見える日本もあります。東日本大震災で人々の価値観が大きく覆される経験をした日本。記念講演で佐藤君が、大切なもののちを守るのだと改めて認識させてくれたのが印象的でした。いつまでも帰りたい日本であって欲しい、そのために自分は何ができるかを、今一度考えてみたいと思いました。

（米国シカゴ在住）



満面の笑顔で



仲間との結束を再確認

平成30年度（第31回）同窓会総会第一次案内

平成30年度（第31回）の同窓会総会は、下記の要領で開催されます。
皆様のご参加をお待ちいたしております。

記

〔日時〕平成30年8月4日（土）午後2時 〔会場〕宮城教育大学講堂 ほか
実行委員／昭和62年度、平成9年度、平成19年度卒業生

※平成29年度第30回総会において、平成30年度第31回は7月28日（土）実施としていましたが、8月4日（土）に宮城教育大学ホームカミングデーとの同日開催とする予定です。

平成28年度 庶務報告

- (1) 総会開催 平成28年7月30日 ホテル白萩
- (2) 理事会開催 平成28年7月30日 ホテル白萩
- (3) 総会実行委員会設立 昭和60年度、平成7年度、平成17年度卒業生担当
- (4) 会報「山にありて」28号発行
- (5) 学生自主活動支援

平成28年度 会計報告

単位 (円)

- (1) 会計期間 平成28年4月1日から平成29年3月31日
- (2) 収支概況
 - 収入総額 9,091,318
 - 支出総額 9,091,318
 - 差引残額 0
- (3) 繰越金の処理について 積立金+繰越金 5,574,016 次年度繰越金 2,989,016
 積立金 2,585,000
- (4) 財産状況(平成29年3月31日現在額) 現金+預金合計 5,574,016
 - 現金 28,426
 - 預金 1,369,577 (ゆうちょ銀行 普通預金)
13 (七十七銀行 普通預金)
 - 4,176,000 (ゆうちょ銀行 振込用口座)

* 繰越金から積立金を区分して表示する目的は当該年度の収支状況をわかりやすくするためです。
 * 現段階では積立金の目的は決まっていません。
 * 今後、積立金を取り崩して収入の部に組み入れる際は総会で承認を受けるものとします。

1. 収入の部

項目	28年度予算額	28年度決算額	比較増減額	備考
1. 会費	3,200,000	4,176,000	976,000	522名 (在学生328名、卒業生194名)
2. 総会・懇親会	300,000	442,000	142,000	懇親会費68名分
3. 利息	1,200	28	△1,172	
4. 雑収入	0	101,458	101,458	
5. 前年度繰越金	4,371,832	4,371,832	0	
合計	7,873,032	9,091,318	1,218,286	

△減

2. 支出の部

項目	28年度予算額	28年度決算額	比較増減額	備考
1. 事務費 小計	135,000	103,384	△31,616	
(1) 事務費	25,000	13,824	△11,176	
(2) 通信費	25,000	24,808	△192	
(3) 人件費	60,000	56,700	△3,300	
(4) 会議費	25,000	8,052	△16,948	
2. 事業費 小計	3,350,000	3,413,918	63,918	
(1) 総会費	400,000	473,028	73,028	会場料・講師謝礼・懇親会料金
(2) 会報発行	700,000	644,603	△55,397	山にありて28号13,000部
(3) 会員情報管理費	1,500,000	1,512,272	12,272	会費未納者を含む全同窓生に送付
(4) 学生活動援助	700,000	699,000	△1,000	
(5) 広報費	50,000	85,015	35,015	新入生用入会案内
3. 雑費	50,000	0	△50,000	
4. 予備費	4,338,032	0	△4,338,032	
5. 寄付	0	0	0	
6. 積立金	0	2,585,000	2,585,000	
7. 次年度繰越金	0	2,989,016	2,989,016	
合計	7,873,032	9,091,318	1,218,286	

△減

3. 積立金の部 2,585,000

平成29年度 事業計画

- (1) 総会開催 平成29年8月5日 ホテル白萩
- (2) 理事会開催 平成29年8月5日 ホテル白萩
- (3) 総会実行委員会設立 昭和61年度、平成8年度、平成18年度卒業生担当
- (4) 会報「山にありて」29号発行
- (5) 学生自主活動支援

平成29年度 予算

単位 (円)

- (1) 会計期間 平成29年4月1日から平成30年3月31日
- (2) 収支概況
 - 収入総額 5,389,036
 - 支出総額 5,389,036
 - 差引残額 0

* 予備費を増額する目的
 予算執行の基本方針は当該年度の収入の範囲で活動(支出)を計画します。但し、当該年度中に予想を超える事態が発生(例えば震災)した場合に備えて「予備費」と計上します。
 10万円を超える予備費の執行に当たっては臨時理事会を開催して決着します。

1. 収入の部

項目	28年度決算額	29年度予算額	比較増減額	備考
1. 会費	4,176,000	2,400,000	△1,776,000	(300名×8,000円)
2. 総会・懇親会	442,000	0	△442,000	懇親会費は総会実行委員会が受取
3. 利息	28	20	△8	
4. 雑収入	101,458	0	△101,458	
5. 前年度繰越金	4,371,832	2,989,016	△1,382,816	
合計	9,091,318	5,389,036	△3,702,282	

△減

2. 支出の部

項目	28年度決算額	29年度予算額	比較増減額	備考
1. 事務費	103,384	100,000	△3,384	
(1) 事務費	13,824	15,000	1,176	
(2) 通信費	24,808	25,000	192	
(3) 人件費	56,700	50,000	△6,700	
(4) 会議費	8,052	10,000	1,948	
2. 事業費	3,413,918	3,185,000	△228,918	
(1) 総会費	473,028	100,000	△373,028	会場料・講師謝礼(懇親会料金は除く)
(2) 会報発行	644,603	700,000	55,397	山にありて29号13,000部
(3) 会員情報管理費	1,512,272	1,200,000	△312,272	会費未納者には隔年での送付
(4) 学生活動援助	699,000	700,000	1,000	
(5) 広報費	85,015	100,000	14,985	新入生用入会案内、HP開設
(6) 事務局業務委託費	0	385,000	385,000	H29.9.1~H30.3.31(＠55,000×7ヶ月)
3. 雑費	0	0	0	
4. 予備費	0	2,074,036	2,074,036	
5. 寄付	0	30,000	30,000	
(1) 大学業務等支援寄付金	0	30,000	30,000	校章の記章(バッジ)作成に係る支援
6. 積立金	2,585,000	0	△2,585,000	
7. 次年度繰越金	2,989,016	0	△2,989,016	
合計	9,091,318	5,389,036	△3,702,282	

△減

3. 積立金の部 2,585,000

今年度定年退職教員

この春、お世話になった三名の先生方が定年を迎えられご退職されます。在学期間中の思い出や、宮城教育大学学生に対する思いを記していただきました。

「ゼミ合宿」のすすめ



学校教育講座
教授
笠間 賢二

宮教大に赴任して二十六余年の時間が経過しました。卒業生も百名を超えました。アツという間の四半世紀でしたが、その間ほぼ一貫してやってきたことがあります。

「秋の合宿」と「春の遠足」（教育施設見学）です。始めたのには事情がありました。学生との距離が近いのが宮教大の特徴だとよく聞かされましたが、それは教員側の思い込みではないか？というのが私の観察でした。

案の定、泊り込みの「ゼミ合宿」の効果は絶大でした。翌週からの

ゼミには、それまでとは打って変わって、人間性丸出しの本音でぶつかってくるゼミ生の姿がありました。おそらく、警戒感が解かれたのでしょう。真に鍛えるのはこれからだという思いを新たにしました。

教員養成という仕事は、知的訓練に終始するものではなく、人間の陶冶を伴わなければなりません。大学はそうした領域に踏み込むべきではないという意見もありますが、東アジア文化圏に位置する日本の教員養成では、その教師像に「師」的要素を含むこともあって、取り組みざるを得ない難題となっております。その実践的なきっかけを提供してくれたのが、この「ゼミ合宿」でした。

教員養成とは教員が学生に自己の人間性も含めて「実体的」影響を及ぼしていく作用であること、これが、私が学んだことでした。

二十一年ふた昔

特別支援教育講座
教授
関口 博久

「大学の教員は三日やったら辞められないって言いますからね」と知人に声を掛けられた。本学に着任するちよつと前のことである。

仙台市児童相談所の所長として激務をこなしていた、やや疲れ気味の頃だったので、バラ色の大学生活が待っているのかと幻想も抱いて山に登ってきたが、現実は違っていた。もうそんな時代ではなかったのだ。

着任したのは平成九年で、今は無きゼロ免のL課程が鳴り物入りでスタートしての二年目だった。学内唯一の精神科医だから仕方ない面もあったのだろうが、待ち構

えていた授業の数が半端じゃなかった。そこから生まれて初めての「授業をする」という課題に直面し続けて二十一年が過ぎようとしている。最近ようやく授業のコツのようなものが分かりかけてきていたところで時間切れ、定年退職と相成った。

教育実習、学生相談、保健管理、学務等にも関わらせてもらった。学務担当副学長として入試にも関与することができた。どれもこれも一筋縄ではいかない難しい課題が山積していて苦勞し困惑もしたが、今となってはすべて貴重な思い出となっている。

教員養成は崇高な使命である。今後とも本学の存在が色褪せないように、陰ながら応援し続けていこうと思っている。



二つの教育課程と 新たな出発



学務担当副学長
数学教育講座
教授
瓜生 等

昭和六十三年四月に宮城教育大学に赴任しました。その頃の大学のカリキュラムはA類(幼、小)、B類(中等、特別教科)C類(特殊)と大きく区分けされた教員養成八課程で構成されていきました。いわゆるABC時代です。

その後、ゼロ免学生を受け入れる教育体制が教員養成大学に求められるようになり、平成八年、宮教はいわゆるTSL三課程の時代となりました。教員養成(T、S)と新課程(L)を両方維持するために、新たなアイデアと労力を重ねることが求められ、理想についてたくさん討議したことを思い出します。

平成十九年度、本学は初等・中等・特別支援三課程の教員養成に再度特化します。現在のカリキュラムです。この教育課程には希望が多く盛り込まれました。授業を

教育実習と深く関連させたこと、現代的科目群の創設をしたことが特徴です。

そして、平成二十九年のいま、次期の教育課程が検討されています。議論の根幹にある難しさは大学組織のダウンサイジングが求められていることです。厳しい条件のもとに、最大限の理想と希望を探る精緻な議論が求められています。平成三十四年度(第四期中期目標期間の発足時期)を目指し、新たな方針の下に、将来有意な卒業生を育て得る、魅力ある大学を構築されることを心から祈っております。お世話になりました。



快適な講堂に リニューアル

宮教大講堂改修工事終了

平成二十九年三月、七ヶ月間の改修工事が終了し、快適で丈夫な講堂に生まれ変わりました。



講堂正面

主に耐震化のための工事でしたが、トイレの全面リニューアルと冷温水発生機の新設工事も行われました。この二つの工事の一部費用を「地域に開かれた大学のための環境整備事業」の一環として同窓会から寄付いたしました。

講堂一階にある男子トイレ、女子トイレ、多目的トイレの三つのトイレは、白と明るい木目調で統一された清潔感のある美しいトイレに生まれ変わりました。

また、屋外に新設された冷温水発生機により、講



屋外の冷温水発生機



生まれ変わったトイレ

室内は冷暖房完備となり、暑い日での使用も快適になりました。一階ロビーから階段を上ったところに掲額されているプレートには、講堂の改修工事費用を寄附された皆様の御芳名が刻まれています。

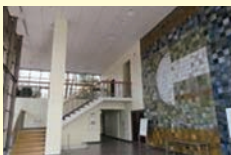


プレートの除幕式(平成29年3月22日)

その他、一階ロビーの天井やホール内の照明も新しくなり、以前より明るい雰囲気となりました。

工事終了後には、平成二十八年度の学位授与式、平成二十九年度の大学祭や萩音祭、各部・サークルの発表会などで利用されています。

同窓生の皆様も近くまでお越しの際は、ぜひ講堂に足をお運びください。



明るい雰囲気のロビー

恩師は今

ネットワークに 生かされて



宮城教育大学 名誉教授
中屋 紀子
(家庭科教育)
(平成21年3月 退官)

今から三十年ほど前、十年間ほど「おばさん五人の会」と言い合っていて、一緒に研究した仲間がみな定年退職しました。格好つけて「家庭科への思いを次世代へ繋ぐ五人の会」と名前を変えて、二〇〇九年から共同研究を再開しました。福岡、神戸、静岡、横浜そして仙台に住む家庭科教育を専門とするメンバーです。

この会にとつて、ネットワークなしでは始まりません。

在職中、鎌田慶朗先生にはネットワークのみならず、パソコンについて、初歩から教えていただき



ました。いつもSOSを出すたびに、厭な顔一つされずに飛んできてくださったって、助けて頂きました。おかげで、ネットワークを使うことができて、今日があります。感謝、感謝です。

また、研究の場面では、それぞれの「財産」を広げあって、「もう業績はいらぬの」と、意見交換するので、この年になってはじめて知ることも多いです。

私にとつていいことは、気になることについて制限時間をつけることで、調べることができるようになります。大学からアドレスを頂戴したので、自宅のパソコンから宮城の図書館に繋ぐことができます。図書館まで足を運ぶと、国立国会図書館「資料送信サービス参加館」制度で、データを見ることができ、本当にラッキーです。

同窓生の輪

「施而不求」



宮城県立光明支援学校 勤務
樫村 恵三
(小学校教員養成課程体育ピーク)
昭和55年度卒

るニーズに応じた適切な指導を行い、その可能性を最大限に伸ばして、現在及び将来にわたって豊かに生きていく人間を育成することを学校の教育目標としています。



光明の伝統の最もたるものは、「施して求めず」であります。開校以来、「この子らに光明を」「この子らを光明に」

本校は、「精神薄弱児のしあわせ」のための宮城県民による「愛の十万人運動」により、入所施設「小松島学園」の児童生徒の教育のため、昭和三十六年四月に宮城県立光明養護学校として開校しました。その後、平成六年四月一日に、現在の南中山に校舎を新築移転しました。平成二十一年度「宮城県立光明支援学校」と改称、平成二十六年年度、旧県特別支援教育センターを改修し小学部棟がオープンしました。



一人一人の児童生徒が社会に参加し、自立していく上で必要とする

を主柱に置き、教職員として「施而不求」（児童生徒に対して施して求めない愛情をそそぎ、その幸福を願う）「よく学ぶものこそ人の師たり得る」を教育理念として受け継いでいます。

今後「施而不求」、本校の教育活動の目的に照らしながら「合理的配慮」を提供し、「チーム光明」として教職員一同、「笑顔で、元気に」「安心安全」な学校づくりに努めていきます。



光明支援学校HPへ

今回は、名取市立増田小学校 吉木 修先生
(中学校教員養成課程保健体育専攻昭和五十五年度卒)

多くの出会いと 経験を

廣島利夫

養護学校教員養成課程
昭和63年度卒



養護学校教員になりたいと思いい、地元の教育大学を選んだのが、つい先日のことのようです。入学後まずコンパの席で先輩から言われたことは「大学は人とかかわりを学ぶところだ」ということでした。その教えの通り、大学時代は良き仲間にも恵まれ多くの活動に参加しました。「応援団は宮教大の良心である」との教えを受けながら、元大リーガーをスタンドでやじったり、女子ソフトボール部の監督としてインカレに出場したり、男子ソフトボール部を創部したり、ありんこで活動したりと、

充実した学生生活を送ることができました。卒業後も福祉大球場には春季、秋季と最低一試合は足を運んでいました。応援団や硬野の後輩たちの頑張っている姿を見るのが好きだったため、まさか息子を応援する日が来るとは思っていませんでした。

教員は人を育てる仕事です。そのためには引き出しの多さが必要です。障害のあるなしにかかわらず、子どもたちの可能性の芽を見つける目を持つためにも体験の多さが役立ちます。先輩の皆さんには学生のうちに是非多くの体験をしてほしいと思います。また、ボランティア活動等で、教員以外の人たちとかかわりも増やしてほしいと思います。

(仙台市立北仙台中学校勤務)



親 子 DE 同 窓 生

宮教大に入学して三年が経ちました。三年間あっという間でした。私が宮教大を選んだのは父の影響が大きかったと思います。

小さい頃に元応援団の父に連れられて行ったのが仙台六大学野球の宮教大の試合でした。そこで立派な球場で野球をしている大学生を見て、ここが宮教大を目指したきっかけでした。

入学後、迷わず硬式野球部を選び、三年間野球中心の日々を送ってきました。チームメイトには様々な野球の知識、

考えを持った人がいて、技術だけでなく人間的にも成長できました。今の目標はAクラス入りです。宮教のレベルでは難しいと思いますが、それに向かって努力、練習することは楽しいです。

父と同じ宮教大に進学して良かったと思っています

教育実習の事前指導で教員の仕事は生徒と夢を語り合うことだと教えていただきました。

どんなに困難な夢であるといても夢へ向かおうとしてくれる生徒を全力で手助けする、そんな教師になりたいと思っています。

そのために残り一年の大学生活を悔いの残らないよう一杯過ごしたいと思っています。

夢を語り合える 教師へ

廣島寛太

中等教育教員養成課程
数学教育専攻
平成27年度入





女子バスケットボール部 (OG)

高橋 真澄

中学校教員養成課程
(保健体育専攻)
平成九年度卒

当時は振り返って

女子バスケットボールは、サークルというよりは部活に近い存在で、週に四回程度しっかりと練習していました。一番大きい大会は、春に行われる「全教戦」です。全教戦は、全国の教育大学が集い、試合を行う大会です。会場が各教育大学の持ち回りで行われるため、旅行のような楽しみもあり、よき思い出として心に残っています。

名物監督もいました。当時、保健体育科の教授でいらした高木力雄先生です。通称「リッキー」という呼び名で、生徒に親しまれていました。大学のサークル(部)の監督を教授がしてくださいるのは、とてもめずらしいことではないでしょうか。バスケットボールに情熱を傾け、私たちに接して下さったことは、本当に有り難かったと思います。バスケットを通して先輩や後輩・仲間と知り合い、絆を深められたことは、かけがえのない貴重な宝物です。

(横手市立山内小学校勤務)



サークル 今昔



女子バスケットボール部 (現役)

佐藤 穂香

特別支援教育教員養成課程
発達障害教育コース三年

現状に満足しない

私たちは現在ブレイヤー十七人、マネージャー四人の二十一人で、週に三回(長期休みには週四回)の活動を行い、日々成長を求めて練習に励んでいます。九月に行われた二部南奥羽大会では、東北大学と接戦の末、惜しくも三点差で準優勝という結果となりました。それまで私たちは「二部優勝、一部入れ替えにいく」ことを目指していただけに非常に悔しい結果となりました。しかし、自分たちが練習してきたことが、試合の中で活かしている場面がたくさんありました。自分たちがやってきたことに意味はあったのだと確信しました。

この悔しさを胸に、三月に行われる全国教育大学系十一大学バスケットボール競技大会に向け、チームはまた新たに、スタートを切りました。ディフェンスからしっかりと守って流れを作り、自分たちらしい攻め方で確実に点を取るようにバスケットを目標としています。

最後になりますが、私は今のこのチームが大好きで、本当に大切な存在です。そんな仲間たちと最後は笑って終えられるように、残り少ない練習を現状に満足せずに一生懸命取り組みたいと思います。



集まれみんなの学舎に
ホームカミングデー
二〇一七
宮教大の今と昔に触れる一日

平成二十九年八月六日（日）、宮城教育大学秋朋会館二階にて、ホームカミングデーが開催されました。

午前十時から始まった会は、第一部「宮教大の今」と第二部「会食で交流を深めましょう」の二部構成で行われ、多くの卒業生が学舎に集まりました。

第一部では、見上学長の挨拶の後、「教員キャリア研究機構」「COC事業」「防災教育未来づくりセンターの取組」など、現在の大学における特徴的な取組が紹介されました。また、第一部の最後は、チャリダーの演奏とアカペラサークル「奏」の演奏が披露されました。大学の新しい動きと現役学生の若いエネルギーを感じることができました。



第二部は立食パーティーの形でわれ、多くの恩師や同窓生が参加しました。昼食をいただきながら年代を超えて交流し、懐かしい話題に花を咲かせていました。スピーチや歓談タイムの後は、「宮城教育大学学生歌」と「殻を破れ」を全員で合唱し、懐かしいメロディーに浸ることができました。

平成三十年度は、同窓会総会と同日に開催する予定だということですが、宮教大の新しい風にも触れながら、学生時代の思い出話と現在のお互いの活躍を話題に交流を深める場にしてほしいと思います。



集まれ！同窓生！宮教大へ。

（編集長 野中）



宮城教育大学

「ホームカミングデー2018」
のご案内

- ◎日時：平成30年8月4日（土）午後3時～（開場 午後1時）
- ◎会場：宮城教育大学構内

東北の教育の中核を担う大学として「学び続ける教師」の視点に立ち、宮城県はもとより東北各県を中心に全国で活躍されている本学卒業生を招待し、本学の歴史的変遷の理解やそれぞれの現場が抱える課題について、意見や情報交換の場とするとともに、教職員と卒業生との相互の交流を深める機会として、ホームカミングデーを開催いたします。

今回は、平成30年度（第31回）同窓会総会との同日開催とし、同窓会総会との合同での催しを予定しています。

お問い合わせ先

学生課学生企画係

電話：022-214-3595 メール：homecoming@adm.miyakyo-u.ac.jp

事務局だよ！

平成二十九年度の同窓会総会は、小林信之氏（昭和六十一年度卒第十九回生）を実行委員長として、八月五日（土）、ホテル白萩にて盛大に執り行われました。多忙な中、総会開催に尽力された皆様に感謝申し上げます。また、講演を賜りました佐藤敏郎氏（昭和六十一年度卒第十九回生）に御礼申し上げます。平成三十年度は、昭和六十二年度卒の皆様を中心に実行委員会が結成され、準備が進められているところです。皆様のご参加をお待ちいたしております。

さて、国立大学の法人化後、大学と卒業生とのかわり方がこれまで以上に重要となる中で、多くの国立大学が同窓会との連携・協力の体制整備を進めています。教員養成という使命を持ち、「生涯学び続け深化する教員」（イノベーター・ティーチャー）の育成をめざしている宮城教育大学においても、大学と卒業生との相互支援関係の構築は極めて重要な課題となっております。そこで、平成二十九年度の同窓会理事会・総会では、宮城教育大学同窓会の事務局業務の一部を宮城教育大学学生課に委託することが提案され、承認されました。事務局の体制を強化することで同窓会活動の充実を図るとともに、同窓会の会員データベースを大学の事業等においても活用することを通して、卒業生の皆様

と本学のさらなる発展に寄与することを願うものです。見上一幸学長には、六年にわたって同窓会会長をお務めいただき、上記のような体制整備を含め、同窓会に對しまして様々にご指導・ご尽力を賜りました。見上先生のご退任に際しまして、改めまして心より御礼を申し上げます。

最後に同窓会会報につきまして、前々号（二十七号）の発送時にもご案内申し上げました通り、同窓会理事会での検討結果を踏まえ、会費未納の皆様には数年に一度の送付とさせていただきます。同窓会会報の発行を含め、同窓会活動は皆様からの会費によって成り立っております。未納の皆様におかれましては、このことをご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

末筆ながら、同窓生の皆様の日頃のご支援に感謝申し上げますとともに、引き続き同窓会活動にご支援を賜りますようお願い申し上げます。

事務局長 越中 康治
（平成二十九年年度卒）

同窓会費納入先

郵便振替

02240121345588

宮城教育大学同窓会

同窓会費：八、〇〇〇円（終身会費）

恩師訃報

田中農夫男先生（本学名誉教授）
平成二十九年三月三十一日
瀧谷 傳先生（本学名誉教授）
平成二十九年八月二日
が、ご逝去なされました。ここに謹んで哀悼の意を表します。



編集後記

おかげさまで第29号が完成しました。今回は、原稿を依頼した方々から「これから〇〇に会うから、原稿依頼のこと話しておこうか」「写真提供しましょうか」など次々とお声掛けをいただき、スムーズに編集作業を進めることができました。宮教大同窓生のつながりのすばらしさに改めて感謝です。

今号の特集は「宮教大でまた学ぼう！」でした。教職大学院で学ぶ同窓生から刺激を受け、自分も何かしようかなと考えるきっかけにいただければ幸いです。

前号を出した後「毎号楽しみにしています」など、この同窓会誌への感想をたくさんいただきました。編集委員としては大変励みになります。次号は記念すべ

き第30号となります。第30号までの歴史を振り返り、少しでも多くの同窓生の声を届けられるような内容にしていけたらと考えています。次号もどうぞよろしくお願いいたします。

（編集長 野中 映里
仙台市教育センター勤務）

【編集委員】

橋本 俊一（昭和48年度卒）
未永 精悦（昭和53年度卒）
鈴木 朝二（昭和53年度卒）
平間 正信（昭和62年度卒）
浅野 郁子（昭和62年度卒）
加藤 良樹（平成6年度卒）
堀之内優樹（平成8年度卒）
野中 映里（平成10年度卒）
近藤 ゆき（平成13年度卒）

同窓会誌がWebページで見られます

前号第28号から同窓会誌をWebページで見られるようになりました。宮城教育大学Webページのメニューから「卒業生の方」をクリックし、「同窓会」リンクボタンをクリックすると同窓会誌PDF版を閲覧できます。パスワードは、「yamaniarite16」（やまにありて16）です。